

財政事情の公表

368億円の使いみち

57年度

一般会計

市民のみなさんに、市の財政状況を知っていただくため、市は、6月と12月の年2回、財政事情を公表しています。

今回は、昭和57年度決算の状況を中心に、昭和58年度予算とその執行状況について、グラフと表を使ってお知らせします。

この機会に、富士市の財政についてご理解ください。

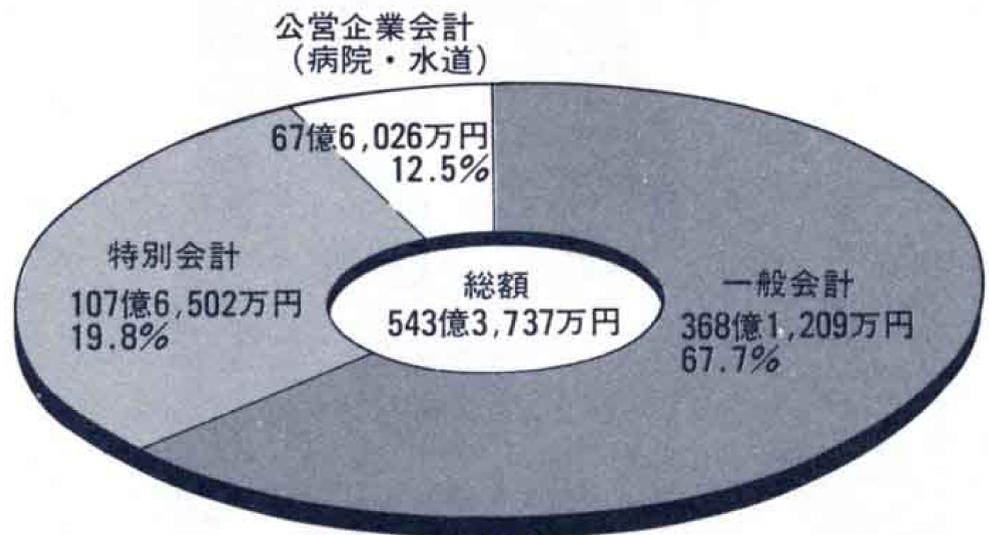
昭和57年度 会計別決算状況 (歳出)

まず初めに、昭和57年度決算についてお知らせします。

一般会計については、当初予算額362億3,000万円に対して、歳入合計額は388億9,655万円、歳出合計額は368億1,209万円でした。

特別会計については、当初予算額93億8,152万円に対して、歳入合計額111億380万円、歳出合計額107億6,502万円。

公営企業会計については、当初予算額90億2,607万円に対して、歳入合計額63億2,009万円、歳出合計額67億6,026万円でした。



昭和57年度 一般会計の決算状況

市税収入は226億円

次に、一般会計歳入の財源別状況をみると、自主財源となる市税が58.2%、諸収入8.5%、分担金及び負担金が3.3%を占めています。

一方、歳出を性質別で見ると、消費的経費としての人件費が26.2%、扶助費7.8%、公債費7.6%、物件費8.6%など。投資的経費としては、補助事業が8.0%、単独事業が18.2%を占めています。

次に、市税のうちわけをみてみます。226億4,283万円のうち、市民税が45.7%、固定資産税が34.4%、電気税10.2%、都市計画税5.0%、市たばこ消費税3.6%となっています。これらを含め1人当たりの負担額にすると10万6,875円となります。

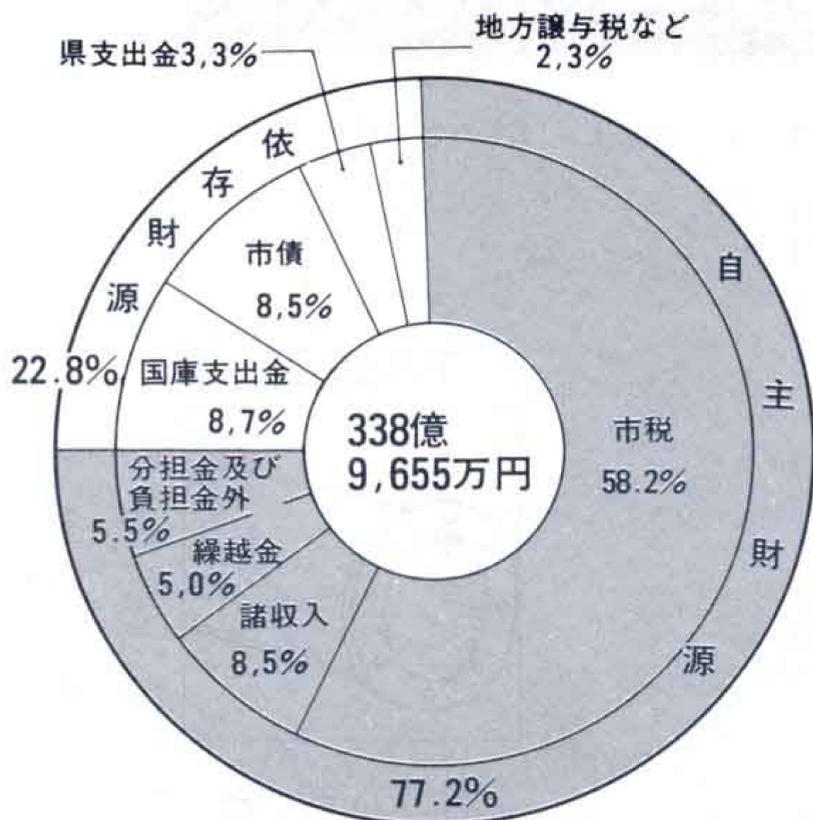
歳入

科目名	収入済額	構成比
総額	388億9,655万円	100%
市税	226億4,283万円	58.2
地方譲与税	4億604万円	1.0
分担金及び負担金	12億7,031万円	3.3
使用料及び手数料	5億6,924万円	1.5
国庫支出金	33億8,762万円	8.7
県支出金	12億8,165万円	3.3
繰越金	19億4,527万円	5.0
諸収入	33億1,156万円	8.5
市債	33億1,030万円	8.5
その他	7億7,173万円	2.0

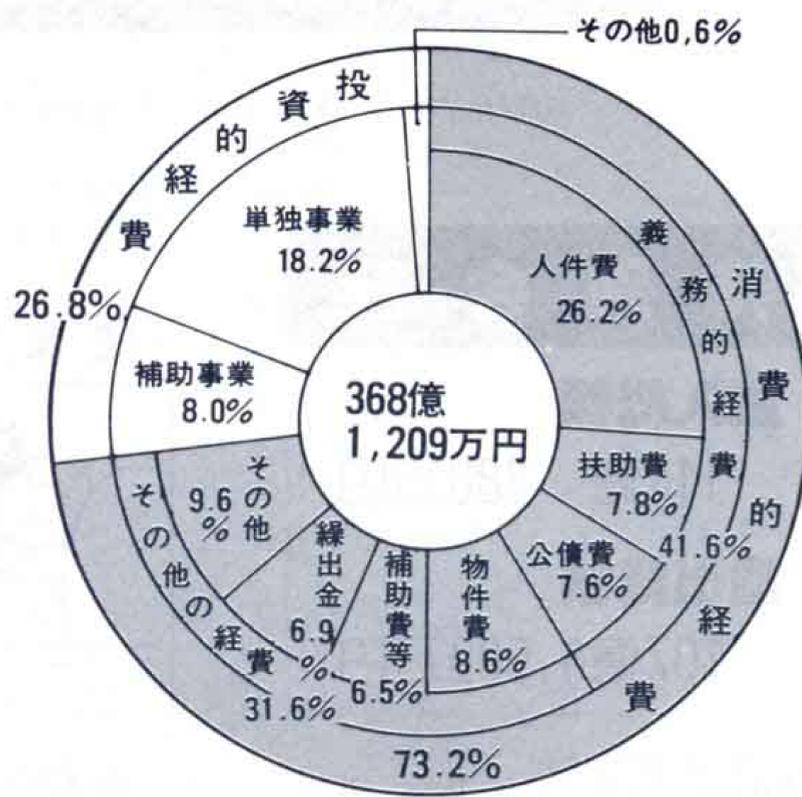
歳出

科目名	支出済額	構成比
総額	368億1,209万円	100%
議会費	4億251万円	1.1
総務費	44億1,064万円	12.0
民生費	57億6,401万円	15.7
衛生費	31億2,869万円	8.5
労働費	12億7,824万円	3.5
農林水産業費	13億3,704万円	3.6
商工費	14億7,838万円	4.0
土木費	88億2,277万円	24.0
消防費	14億8,756万円	4.0
教育費	58億1,241万円	15.8
災害復旧費	9,105万円	0.2
公債費	27億9,780万円	7.6
諸支出金	99万円	—

財源別 歳入

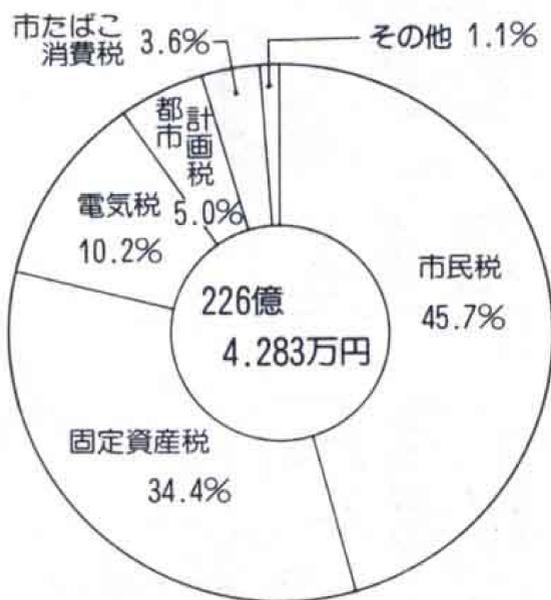


性質別 歳出



財政構造の状況

市税のうちわけ



1人当たりの負担額は

昭和57年度の市民の市税負担額は1人当たり10万6,875円でした。そのうちわけは、次のとおりです。

税目	1人当たりの負担額
市民税	4万8,790円
固定資産税	3万6,789円
市たばこ消費税	3,898円
電気税	1万 870円
都市計画税	5,385円
その他	1,143円

市有財産はこれだけです

有価証券 2,174万円	
土地 4,909万 3,938平方尺	
建物 51万7,877 平方尺	
立木 20万2,705 立方尺	
車両 247台	
昭和58年 9月30日現在	

市債の状況

市の借金を市債といいます。道路や学校を造るには、巨額な費用が必要となり、市税や補助金だけでは賅えません。そこで、国や銀行からお金を借ります。現在の市債をみると次のとおりです。

・市債総額	424億9,115万円
一般会計債	220億1,623万円
特別会計債	127億2,315万円
水道会計債	53億6,310万円
病院会計債	23億8,867万円

一般会計債の状況



基金の現在高

26億4,572万円

基金の主なものは、国保支払準備基金、土地開発基金、総合社会文化会館基金です。 昭和58年 9月30日現在

昭和57年度 特別会計 企業会計の決算状況

◎昭和57年度の特別会計・水道事業会計・病院事業会計の決算状況は次のとおりです。

(財産管理等特別会計は省略しました)

特別会計

歳入総額
111億 380万円

歳出総額
107億6,502万円

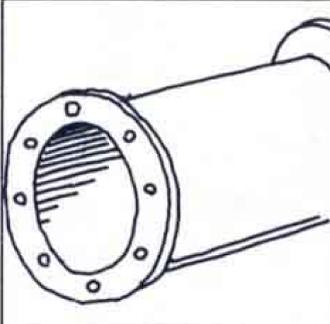
国保会計



歳入
48億8,639万円

歳出
48億4,111万円

下水道会計



歳入
37億4,894万円

歳出
36億5,317万円

依田原新田区 画整理会計



歳入
2億6,985万円

歳出
2億4,571万円

富士中部区画 整理会計



歳入
9億5,290万円

歳出
9億1,596万円

地方卸売 市場会計



歳入
5億8,014万円

歳出
5億7,755万円

駐車場会計



歳入
6,709万円

歳出
5,127万円

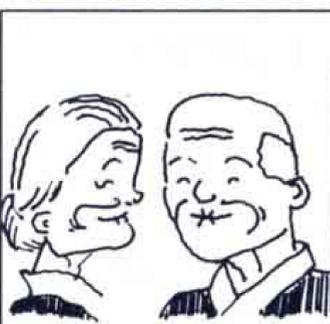
公共用地先行 取得会計



歳入
2億 607万円

歳出
1億9,563万円

老人保険 医療会計



歳入
2億3,833万円

歳出
2億2,501万円

水道事業

収入合計	17億6,150万円
営業収益	16億5,614万円
営業外収益	1億 535万円
特別利益	1万円
支出合計	18億2,541万円
営業費用	14億5,620万円
営業外費用	3億6,921万円



純損失 6,391万円

総配水量 3,257万
1,106立方尺

1日平均 8万9,236立方尺

1日1人平均 484ℓ

(昭和58. 9. 30現在)

病院事業

収入合計	36億8,234万円
医業収益	33億1,890万円
医業外収益	3億6,344万円
支出合計	36億1,463万円
医業費用	34億2,420万円
医業外費用	1億9,043万円
純利益	6,771万円



但し、一般会計からの補助金1億円が営業外収益の中に含まれています。

入院患者 9万9,057人

外来患者 22万115人

外来1日平均 741人

(昭和58. 9. 30現在)

58年度予算の状況

新病院建設費に 今年度は46億円

会計別予算割合



昭和58年度の予算額は、2回の追加補正を含め9月30日現在で、一般会計384億900万円、特別会計134億5,633万円、公営企業会計111億8,899万円、総額では630億5,432万円になります。

一般会計は、当初予算367億2,000万円に対して16億8,900万円が追加補正されました。歳入面では、自主財源の元となる市税収入が、233億7,160

万円で60.8%を占めています。

特別会計では、国民健康保険事業会計や下水道事業会計の外に、新たに老人保健医療事業会計の30億5,900万円が編入されました。

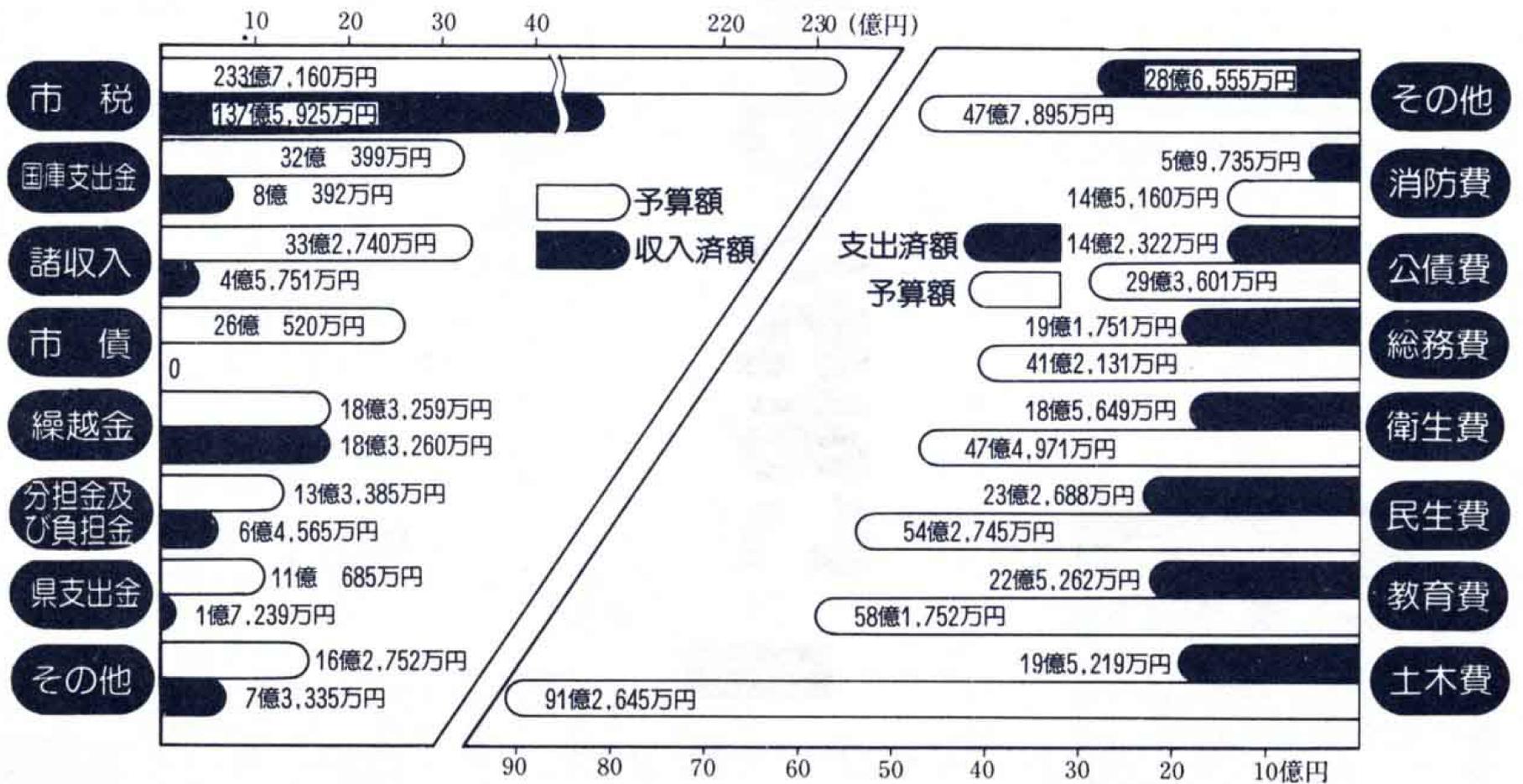
公営企業会計のうちわけは、水道会計が26億9,875万円、病院会計が84億9,024万円。病院会計には、継続事業としての新病院建設費46億1,167万円が含まれています。

昭和58年度 一般会計の予算及び執行状況

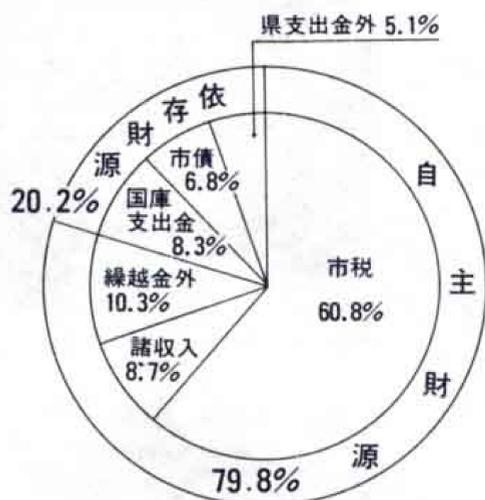
(昭和58年9月30日現在)

歳入

歳出



歳入の財源別状況



財政構造の状況

歳出の性質別状況

